

荒川区における若年世代の自殺予防相談事業報告書

(平成29年度版)

bond Project@あらかわ

荒川区

目次

I	「若年世代の自殺予防相談事業」の概要	3
II	NPO 法人 BOND プロジェクトの概要	3
III	支援・調査の概要	4
IV	実績報告	5
1	BOND プロジェクト全体の相談件数	5
2	「bond Project@あらかわ」の相談件数	5
(1)	対象者数	5
(2)	対象者の属性	8
①	年齢別	8
②	職業別	9
③	性別	9
3	相談内容	10
(1)	主訴	10
(2)	自殺念慮・自傷行為	11
V	考察	12
1	家庭問題	12
2	健康問題	13
3	勤務問題	14
4	経済・生活問題	15
5	男女問題	16
6	学校問題	17
7	その他	18
VI	事例	18
VII	成果と課題	22
1	成果	22
2	課題	22
VIII	講評	24
	[資料]	25
1	相談・支援の流れ	25
2	ボンドのイエについて	25
3	活動写真	27

I 「若年世代の自殺予防相談事業」の概要

平成26年度より始動した本事業は、自殺念慮などさまざまな問題を抱えると思われる若年層（概ね10歳代～20歳代）の対象者に対し、調査と支援を一体的に行う手法で、これまで区役所や公的な相談機関を利用しなかった層に働きかけを行うことを目的としたアウトリーチ型相談事業である。本年度もNPO法人BONDプロジェクトが、自殺念慮、自傷行為、性被害、いじめ、機能不全家族、被虐待、家出、非行、ネットトラブルなどの生きづらさを抱えた若年層に対し、面接相談、電話相談を実施。必要時には関係機関との連携、調整を図り、同行支援を行なった。また、アウトリーチ型相談支援として、従来の街頭パトロールと声かけ運動に加え、本年度はSNSをはじめとするweb上のパトロールや声かけも行い、実際の相談に繋げていくための取り組みを実施した。

II NPO 法人 BOND プロジェクトの概要

2009年に設立し「10代20代の生きづらさを抱える女の子のための支援」を行っている。困難に直面した若年世代の女性にとって相談しやすい環境を作り、「ありのままの自分を表現できるように」という理念のもと、渋谷を拠点に活動する。虐待、性暴力、DV、望まない妊娠・出産、非行、リストカット、依存症、引きこもりなど、生きづらさを抱えた少女たちの声を聞き続けている。繁華街での声かけのほか、相談対応を通して一人ひとりをエンパワメントするとともに専門機関との連携、同行支援、緊急時の一時的な保護、自立を目指した中長期的な保護を実施している。

【BOND プロジェクト本部の活動内容】

- ・メール相談：24時間受付
- ・電話相談：毎週水曜日21：00～翌3：00（平成30年3月まで。3月以降は必要に応じて電話対応を行なっている。）
- ・面接相談/同行支援/緊急時の一時的保護：随時対応
- ・SNS（LINE）相談：毎日17：00～21：00、22：00～翌2：00
（平成30年3月より開始）
- ・「ボンドのイエ」（中長期的な保護、居場所の提供）運営
- ・街頭でのパトロール、声かけ、アンケート
- ・web上でのパトロール、声かけ
- ・情報発信活動
- ・若年女性向けのイベント、研修会、合宿

Ⅲ 支援・調査の概要

今回の調査では、面接相談・電話相談の記録から分析を行う。

面接相談及び電話相談は日暮里駅前の相談室「bond Project@あらかわ」において実施した。対象者は自殺念慮、性被害、被虐待など、何らかの生きづらさを抱えて来所した若年層である。

【相談室「bond Project@あらかわ」について】

開室日：毎週火、木、日曜日。

子どもたちが来所しやすい夏休みや祝日、自殺対策強化月間に合わせた9月にもプラス15回開室し、面接相談を行った。

開室時間：14：00～20：00

特設電話相談：開室日の16：00～19：00

（平成29年4月1日から平成30年3月31日までに計165回開室）

- ・必要に応じて同行支援、他機関との連携対応を行う。

- ・荒川区主催の会議に出席。

（自殺未遂者支援連絡会、精神保健福祉ネットワーク会議、自殺予防事業実務担当者連絡会）

- ・広報活動としての展示出展。

IV 実績報告

1 BOND プロジェクト全体の相談件数

(平成29年4月～平成30年3月の相談件数)

	メール	LINE	bond本部		あらかわ		同行支援	保護	他機関連携
			電話	面談	電話	面談			
4月	952	—	49	36	97	25	1	42	2
5月	1091	—	74	42	97	31	3	46	2
6月	877	—	61	34	95	24	2	32	2
7月	831	—	52	38	94	27	1	31	3
8月	910	—	74	61	99	37	1	59	2
9月	833	—	47	86	86	27	7	81	22
10月	772	—	57	92	104	24	0	86	5
11月	840	—	73	69	99	24	2	60	5
12月	952	—	57	96	83	25	8	78	26
1月	1548	—	62	66	96	24	8	57	20
2月	1131	—	53	59	82	30	2	56	29
3月	1398	3975	17	76	52	24	5	64	38
合計	12135	3975	676	755	1084	322	40	692	156

2 「bond Project@あらかわ」の相談件数

(1) 対象者数

面接相談、電話相談に寄せられた若年者の属性を分析した。

- ・面接相談：322件
- ・電話相談：1084件

(平成29年4月1日から平成30年3月31日までの集計結果)

面談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談	25	31	24	27	37	27	24	24	25	24	30	24	322
新規	0	3	0	3	3	4	2	3	4	2	4	1	29
地域													
都内	18	22	12	14	29	20	18	14	17	11	18	14	207
都外関東	6	7	11	8	6	3	4	9	7	13	10	9	93
その他	1	2	1	5	2	4	2	1	1	0	2	1	22
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
荒川区													
在住	14	15	5	8	21	13	11	10	7	5	7	4	120
在勤	14	15	5	3	0	0	0	7	0	0	0	0	44
在学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在活	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区外	11	16	7	19	16	14	13	0	18	0	23	19	156
年齢													
～10歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11～15歳	0	0	0	1	0	1	0	1	2	1	0	0	6
16～20歳	17	9	9	10	18	11	8	11	7	11	16	13	140
21～25歳	5	19	12	15	14	10	11	9	10	8	11	7	131
26～30歳	3	3	2	1	5	4	5	3	5	3	3	4	41
30歳～	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	4
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職業													
フルタイム	4	4	4	4	6	3	2	3	3	4	5	4	46
パートタイム	6	7	8	6	14	12	7	10	7	7	8	5	97
自営・自由業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専業主婦	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
学生	15	18	11	12	5	6	3	2	7	8	12	11	110
失業・無職	0	1	1	5	12	6	12	9	7	5	5	3	66
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風俗	0	0	0	0	2	1	1	2	2	1	1	0	10
主訴													
心の状態	0	1	1	1	3	4	1	1	5	3	3	1	24
メンタルヘルス	3	2	2	1	1	1	2	0	0	1	1	1	15
自殺念慮	1	0	0	0	1	1	0	2	1	1	2	0	9
自傷行為	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
障がい	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
健康問題	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
暮らし	3	5	4	2	1	1	1	4	0	2	2	2	27
対人	3	2	4	4	4	0	1	1	2	0	1	1	23
仕事	2	4	2	4	9	12	10	2	4	1	7	3	60
学校	3	1	3	0	2	1	1	1	0	1	0	1	14
家族	3	3	2	6	5	2	1	1	2	5	5	5	40
虐待	3	0	1	3	1	1	2	0	0	1	2	0	14
恋愛	1	3	2	0	1	0	1	3	0	4	2	1	18
LGBT	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	4
妊娠、出産、中絶	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
引きこもり	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
ネット被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
犯罪被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ストーカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家出	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
援助交際	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
性被害	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
貧困	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	5
近況報告	1	3	2	5	5	3	3	6	7	1	2	3	41
該当なし	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	4
背景													
心の状態	41	48	33	36	28	19	20	22	19	15	24	18	323
メンタルヘルス	28	38	24	32	19	16	19	20	19	19	23	9	266
自殺念慮	7	13	9	11	12	16	11	15	11	10	14	7	136
自傷行為	19	23	11	14	15	10	9	11	13	11	12	4	152
障がい	9	13	8	12	13	9	12	7	8	4	6	7	108
健康問題	10	12	5	8	1	0	0	0	0	2	1	0	39
暮らし	11	18	7	10	3	3	1	4	5	3	10	3	78
対人	14	26	18	17	27	21	16	15	15	10	15	9	203
仕事	16	26	20	23	30	9	10	15	13	11	17	10	200
学校	26	40	28	27	26	16	15	13	14	10	21	5	241
家族	31	47	31	34	34	24	23	20	21	15	22	16	318
虐待	20	27	14	15	13	9	6	13	13	8	14	7	159
恋愛	7	13	9	11	2	10	12	6	8	3	2	5	88
LGBT	4	10	7	9	14	10	11	6	8	5	5	5	94
妊娠、出産、中絶	1	0	3	1	1	1	1	1	1	0	1	1	15
引きこもり	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
ネット被害	2	6	4	3	10	6	5	6	5	3	4	2	56
犯罪被害	0	0	2	1	2	1	0	3	2	2	1	1	15
薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ストーカー	2	0	2	1	0	1	0	2	1	1	1	2	13
家出	16	21	12	13	11	8	6	8	5	2	2	1	105
援助交際	10	11	2	6	1	0	1	4	5	6	1	2	49
性被害	21	23	9	11	10	9	11	7	8	9	6	3	127
貧困	11	22	5	6	1	2	2	3	2	3	5	5	67
近況報告	2	12	4	2	4	4	5	4	4	8	0	6	55
該当なし	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
対応													
カウンセリング	25	31	24	27	37	26	24	23	25	24	30	24	320
保護	10	11	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	23
他機関連携	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	5
同行支援	0	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1	7
情報提供	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	6
その他	11	11	3	6	3	2	0	2	1	4	2	2	47

電話相談

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
形態	相談	97	97	95	94	99	86	104	99	83	96	82	52	1084
	着信	521	395	378	404	307	132	346	464	289	440	307	99	4082
	新規	4	15	9	1	6	3	6	8	5	4	1	3	65
	都内	32	16	17	25	25	11	26	24	16	20	14	10	236
地域	都外関東	12	24	15	17	15	9	28	33	26	31	27	11	248
	その他	52	52	59	50	57	64	46	41	39	42	37	30	569
	不明	1	5	4	2	2	2	4	1	2	3	4	1	31
	在住	1	0	0	4	4	3	6	5	4	4	2	0	33
荒川区	在勤	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	2	0	9
	在学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	在活	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区外	68	13	6	81	13	83	82	94	79	92	79	52	742
年齢	～10歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11～15歳	5	1	4	3	1	5	6	9	3	5	2	2	46
	16～20歳	39	34	38	29	28	30	31	18	13	18	20	18	316
	21～25歳	25	23	22	27	31	14	23	17	25	35	27	20	289
	26～30歳	19	33	30	32	29	27	36	47	34	23	25	5	340
	30歳～	7	1	0	1	1	2	2	3	1	5	0	0	23
	不明	2	5	1	2	9	8	6	5	7	10	8	7	70
職業	フルタイム	19	10	9	8	5	7	8	7	1	5	3	1	83
	パートタイム	28	31	39	25	38	34	29	20	26	32	27	11	340
	自営・自由業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	専業主婦	0	0	0	0	4	0	1	1	0	0	0	1	7
	学生	31	20	19	27	19	15	24	24	19	27	29	21	275
	失業・無職	16	29	24	30	24	24	34	42	27	28	16	8	302
	不明	3	7	4	4	9	6	8	5	10	4	7	9	76
主訴	風俗	6	2	3	1	3	1	0	1	4	8	7	0	36
	心の状態	14	15	20	11	9	13	10	11	10	12	6	8	139
	メンタルヘルス	10	9	13	9	4	9	13	8	12	6	11	3	107
	自殺念慮	4	6	4	7	2	6	3	8	5	18	7	5	75
	自傷行為	1	4	2	2	2	2	3	5	3	6	7	3	40
	障がい	0	0	1	2	4	1	1	2	0	1	0	0	12
	健康問題	2	5	4	1	2	7	2	1	6	1	4	4	35
背景	暮らし	2	5	6	5	9	2	2	3	2	2	3	4	45
	対人	3	3	5	5	3	3	2	7	2	2	2	1	38
	仕事	22	14	10	8	10	10	10	13	3	9	8	4	121
	学校	6	2	6	5	5	7	4	8	5	5	3	1	57
	家族	10	8	5	6	11	4	13	5	6	5	9	5	87
	虐待	3	1	3	2	3	2	0	1	0	2	3	0	20
	恋愛	2	2	0	2	3	1	6	4	4	1	2	3	30
	LGBT	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	妊娠、出産、中絶	3	0	0	0	3	0	0	1	0	1	1	0	9
	引きこもり	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	5
	ネット被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	犯罪被害	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ストーカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	家出	2	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	8
	援助交際	0	3	0	0	2	1	2	0	0	1	0	0	9
	性被害	1	1	1	0	2	0	5	0	2	3	2	0	17
	貧困	3	1	0	2	2	0	0	0	1	0	2	1	12
	近況報告	10	13	10	17	20	20	18	16	21	10	10	6	171
	該当なし		5	2	6	2	2	5	4	4	5	3	2	40
対応	心の状態	140	143	143	127	59	58	81	86	70	77	66	40	1080
	メンタルヘルス	114	110	107	106	69	61	74	82	60	77	59	37	956
	自殺念慮	77	73	71	60	54	58	73	66	59	48	42	22	703
	自傷行為	76	87	78	67	52	61	72	70	57	63	55	20	758
	障がい	33	53	48	54	42	38	47	48	42	27	24	12	468
	健康問題	0	3	12	10	8	9	11	11	12	14	15	3	108
	暮らし	7	32	20	29	9	13	22	26	16	12	13	4	203
	対人	29	25	38	23	31	32	38	58	44	44	31	6	399
	仕事	81	59	60	53	43	37	39	25	36	43	37	19	532
	学校	95	70	73	65	50	26	36	26	27	27	29	15	539
	家族	129	143	123	111	84	76	84	87	70	79	66	31	1083
	虐待	76	78	72	65	64	48	55	59	45	44	45	17	668
	恋愛	11	12	11	11	8	6	7	16	14	13	11	0	120
	LGBT	29	21	24	18	18	18	12	14	13	8	9	3	187
	妊娠、出産、中絶	26	13	18	15	13	15	14	13	11	9	7	6	160
	引きこもり	16	18	11	8	4	9	11	14	6	8	3	3	111
	ネット被害	3	4	8	7	6	3	7	4	7	8	2	3	62
	犯罪被害	3	7	1	2	1	1	2	0	6	7	1	0	31
	薬物	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	5
	ストーカー	15	3	7	4	2	0	1	1	0	1	1	0	35
	家出	8	7	7	7	9	3	6	5	9	9	10	1	81
	援助交際	16	21	11	9	15	12	11	3	9	17	11	1	136
	性被害	59	63	50	49	33	41	40	50	39	44	30	8	506
	貧困	5	4	2	6	4	3	9	10	5	9	4	3	64
	近況報告	19	30	13	30	7	7	15	16	5	14	6	6	168
	該当なし	0	6	2	6	2	0	1	3	0	1	0	0	21
対応	カウンセリング	97	97	95	92	98	85	104	98	83	95	82	52	1078
	保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他機関連携	1	0	0	1	0	2	2	0	0	1	0	0	7
	同行支援	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	情報提供	1	0	0	1	1	3	2	0	2	0	0	2	12
その他	その他	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4

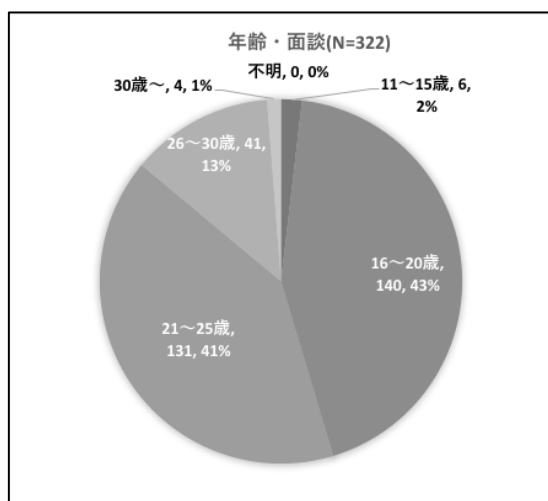
（２）対象者の属性

① 年齢別

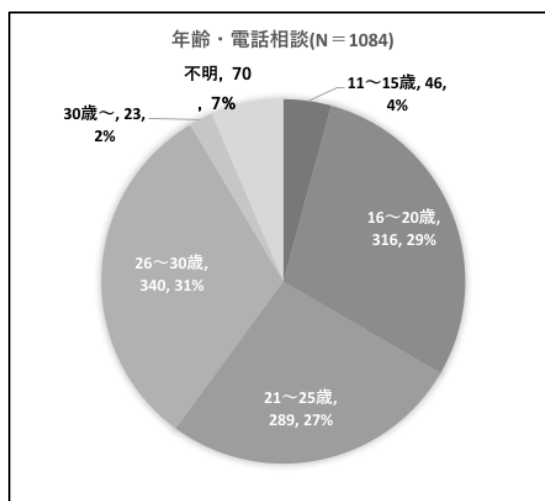
相談者数
(件)

	11～15歳	16～20歳	21～25歳	26～30歳	30歳～	不明	合計
面談	6	140	131	41	4	0	322
電話相談	46	316	289	340	23	70	1084

a.面談(N=322)



b.電話相談(N=1084)



面談では16～20歳が最も多く、140件・43%を占めた。次いで21～25歳が131件・41%、26～30歳が41件・13%、11～15歳が6件・2%、30歳以上が4件・1%、年齢不明は0件だった。

電話相談では26～30歳が最も多く、340件・31%だった。次いで16～20歳が316件・29%、21～25歳が289件・27%、年齢不明が70件・7%、11～15歳が46件・4%、30歳以上が23件・2%だった。

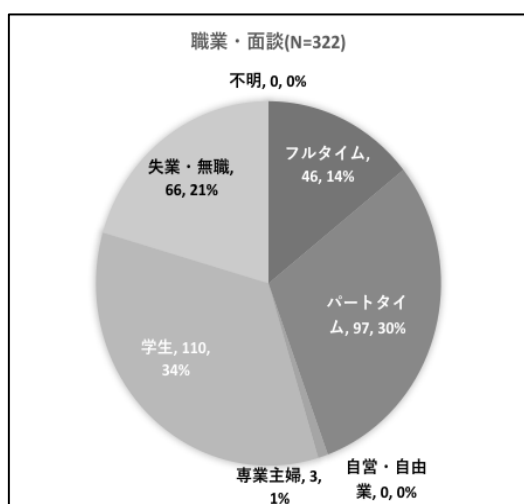
昨年度までと比較すると20代後半の相談者が増加しているが、本事業が継続して4年目に入っているため、リピーターの年齢が上がっていることが考えられる。

② 職業別

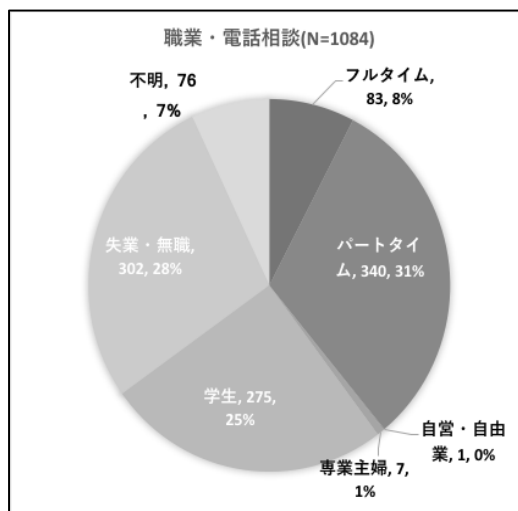
相談者数
(件)

	フルタイム	パートタイム	自営・自由業	主婦	学生	失業・無職	不明	合計
面談	46	97	0	3	110	66	0	322
電話相談	83	340	1	7	275	302	76	1084

a.面談(N=322)



b.電話相談(N=1084)



面談では学生が最も多く、110件・34%を占めた。次いでパートタイムが97件・30%、失業無職が66件・21%、フルタイムが46件・14%、主婦が3件・1%。自営自由業と職業不明は0件だった。

電話相談ではパートタイムが最も多く、340件・31%を占めた。次いで失業無職が302件・28%、学生が275件・25%、フルタイムが83件・8%、不明が76件・7%、主婦が7件・1%、自営自由業が1件・0.1%だった。

昨年度と比べると失業無職の割合が増加している。生活保護を受給するようになった相談者もいるが、就労が課題となっている相談も多く見られた。

③ 性別

相談者数 (件)

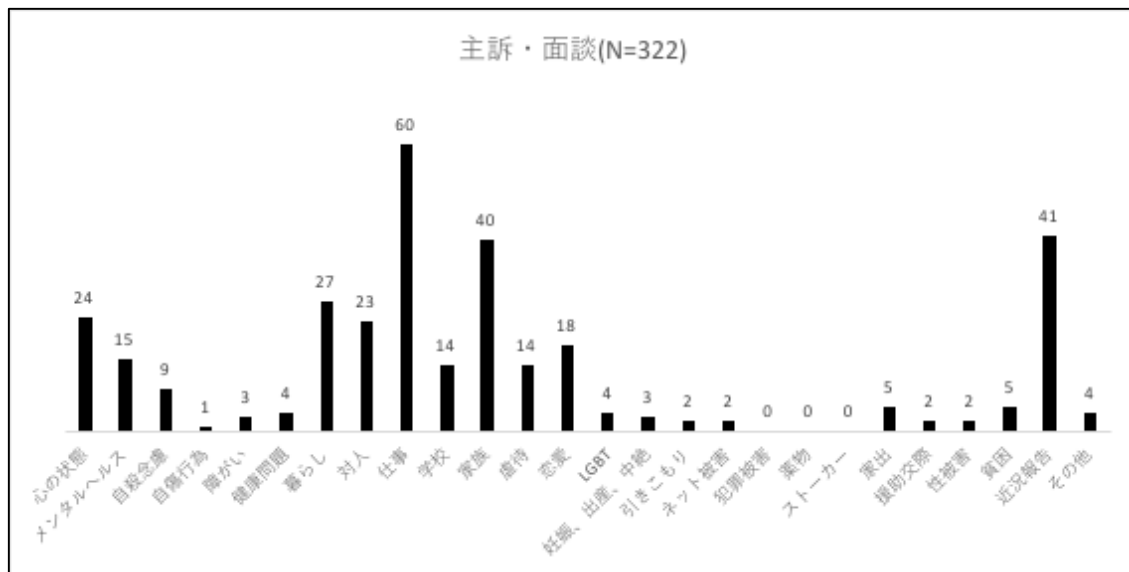
	女性	男性	合計
面談	322	0	322
電話相談	1079	5	1084

相談者の性別はほぼ女性であった。BOND プロジェクトが元来より「10代20代の女の子のための支援」として活動してきたことや、同世代の女性スタッフが対応することもあり、多数の相談が寄せられたと考える。

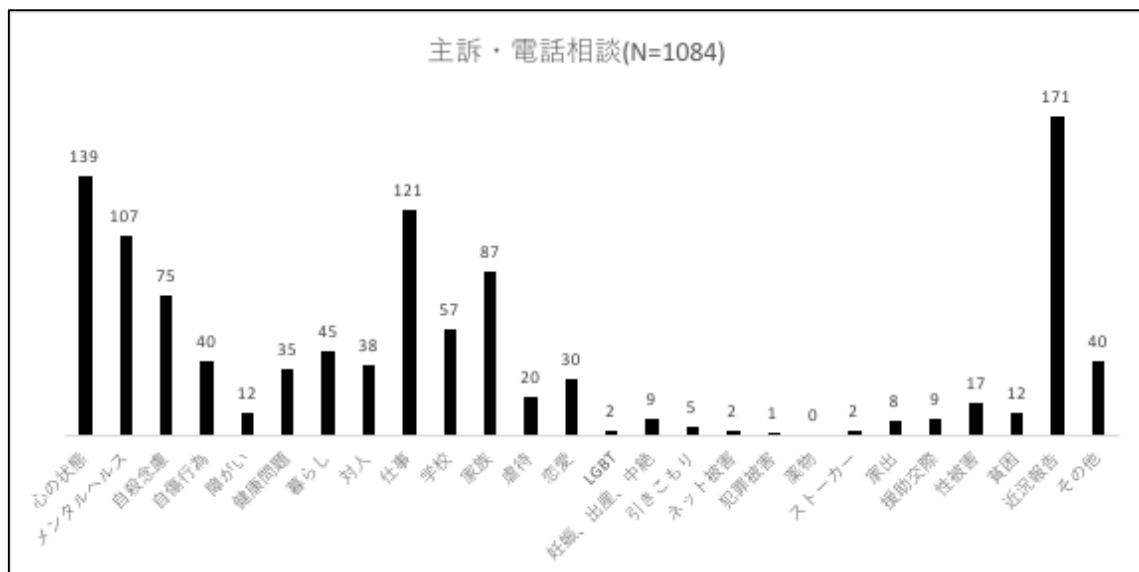
3 相談内容

(1) 主訴

① 面談(N=322)



② 電話相談(N=1084)



特に電話相談ではその傾向が顕著に表れているが、「近況報告」が主訴となることが多か

った。「近況報告」の中には日常会話も含まれ、多くの人が家族や友人などの身近な人と交わすような内容も見られた。周囲の人間関係の中で孤立し孤独を抱えている相談者もあり、BOND プロジェクトが相談のしやすさや気軽さを重視した対応を行ってきたためこのような声も届いていると思われる。

しかしその背景には深刻な問題や自殺念慮が含まれていることが多く、継続して関わっていくことが重要である。

P9②職業別の分析においても触れたが、失業・無職の相談者が増加していることから、仕事についての悩み（就職、求職、働くことについての不安など）が主訴になる事例も多数あった。

寂しい、苦しい、怖い、心の居場所がないなどの「心の状態」や、人間関係に関する悩みとして「対人」「仕事」「学校」「家族」「恋愛」が主訴になる事例も多く見られた。

（２）自殺念慮・自傷行為

（件）

	面談			電話相談		
	主訴	複数回答	合計	主訴	複数回答	合計
自殺念慮	9	136	145	75	703	778
自傷行為	1	152	153	40	758	798

面談(N=322) 電話相談(N=1084)

面談 145 件、電話相談 778 件において「死にたい」「いなくなりたい」「自分を消したい」「自分は生きていてはいけない存在である」といった言葉で「自殺念慮」が語られている。また、「自傷行為」の悩みは面談で 153 件、電話相談で 798 件あった。自傷行為の方法も様々であり、リストカット、アームカット、過量服薬のほか、抜毛や自分をつねる、壁に頭を打ち付ける、ボディーステッチ（皮膚の薄皮を糸を通した針で縫う）、自傷行為の要因を多く含んだ拒食や過食、援助交際をしている事例もあった。

V 考察

若年女性の抱える問題の背景、自殺リスクの要因について、考察を行なった。
背景、要因の分類については、下記の【表1】を利用した。

【表1】自殺のリスク要因の分類

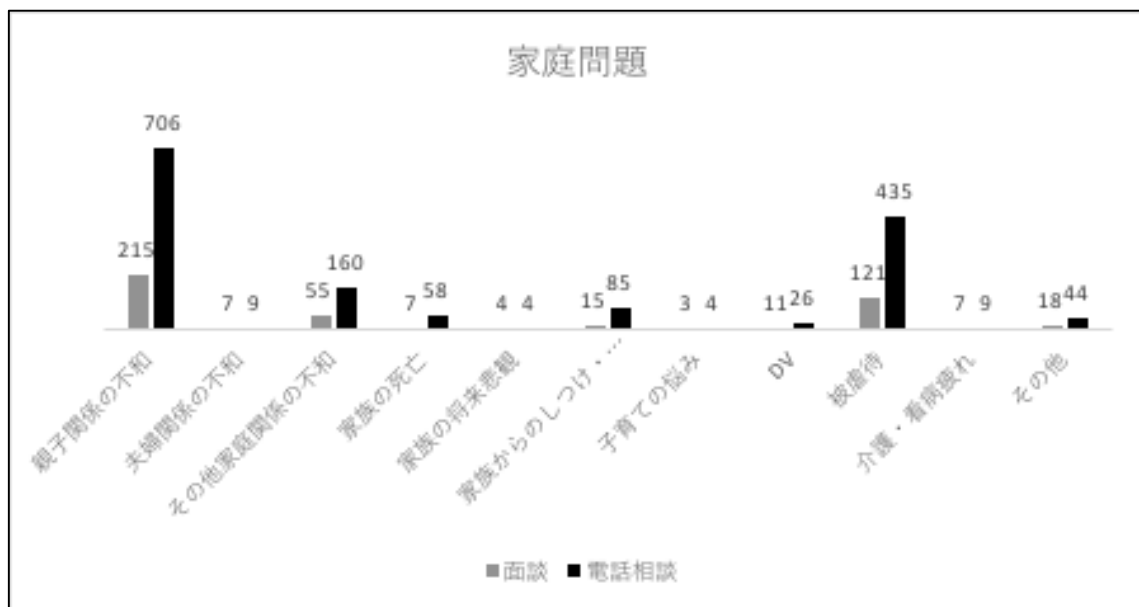
大分類	小分類
【家庭問題】	親子関係の不和、夫婦関係の不和、その他家庭関係の不和、家族の死亡、 家族の将来悲観、家族からのしつけ・叱責、子育ての悩み、DV 被虐待、介護・看病疲れ、その他
【健康問題】	身体の病気への悩み、精神疾患への悩み、身体障害の悩み、 治療関係の悩み、その他、自殺未遂歴、アルコール依存、 ★妊娠中絶、★性別に関する悩み
【勤務問題】	仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れ、その他
【経済・生活 問題】	倒産、事業不振、失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務）、 負債（連帯保証責任）、負債（その他）、借金の取り立て苦、 自殺による保険金支給、相続に関する悩み、その他
【男女問題】	結婚をめぐる悩み、失恋、不倫の悩み、★デートDV、 その他交際をめぐる悩み、その他
【学校問題】	入試に関する悩み、その他進路に関する悩み、学業不振、教師との人間関係、 いじめ、その他学友との不和、その他
【その他】	犯罪発覚等、犯罪被害、★性被害、後追い、孤独感、近隣関係、その他

出典「荒川区自殺未遂調査研究事業報告書『自殺未遂に至った背景要因』」

【表1】の小分類における「★」がついた項目は若年女性が抱えやすい問題として NPO 法人 BOND プロジェクトが独自に加えたものである。

1 家庭問題

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）

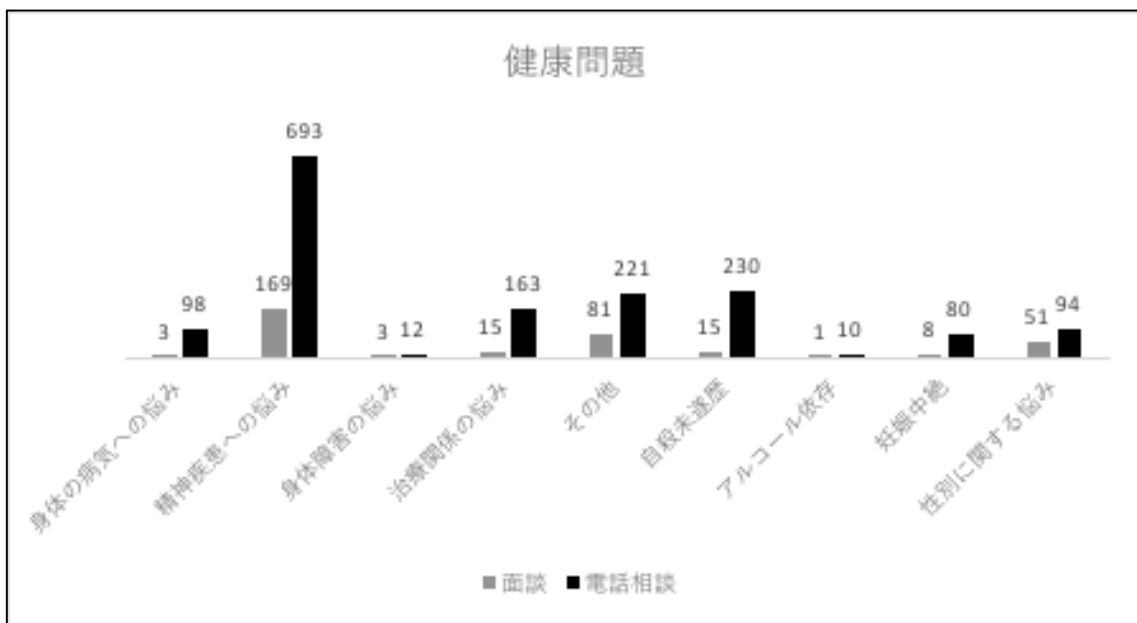


「親子関係の不和」が面談、電話相談ともに最も多く、複数回答のため、その中には親から虐待を受けている「被虐待」の事例も含み、過保護や過干渉に悩む事例も見られた。

「その他家庭関係の不和」では同居する祖父母についての悩みや、兄弟姉妹間で扱われ方が違うといった悩みも見られた。また、祖父や兄からの性的虐待など、「被虐待」の事例も含んでいる。

2 健康問題

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）



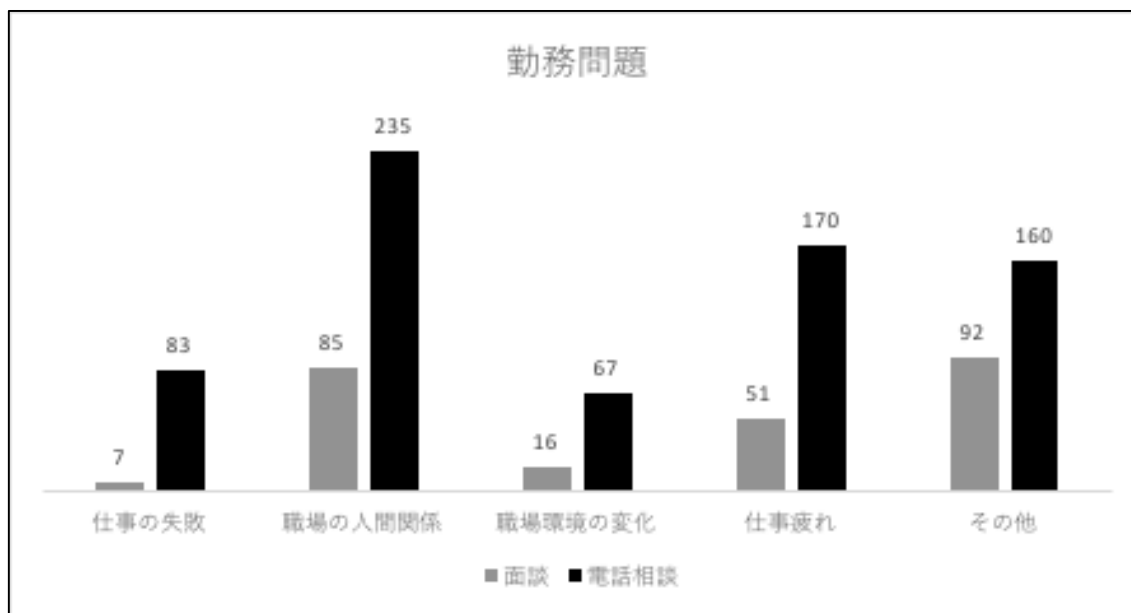
「精神疾患への悩み」が最も多く、発達障害や精神障害に関する悩みもしばしば見られ、診断がおりていない、または本人が気づいていなくても何らかの障害があると感じられる事例もあった。苛立ちや感情のコントロールが効かないことで暴言を吐いてしまう、暴れてしまうなど、他害に関する話も寄せられた。

「自殺未遂」の中には首吊りや飛び降り、過量服薬などにより自殺を図り、入院していたという相談もあった。

妊娠の可能性があるという相談に対しては面談に訪れた際に市販薬で妊娠検査をした事例もあり、「性別に関する悩み」は「男女問題」と併せ持つ事例が多かった。

3 勤務問題

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）

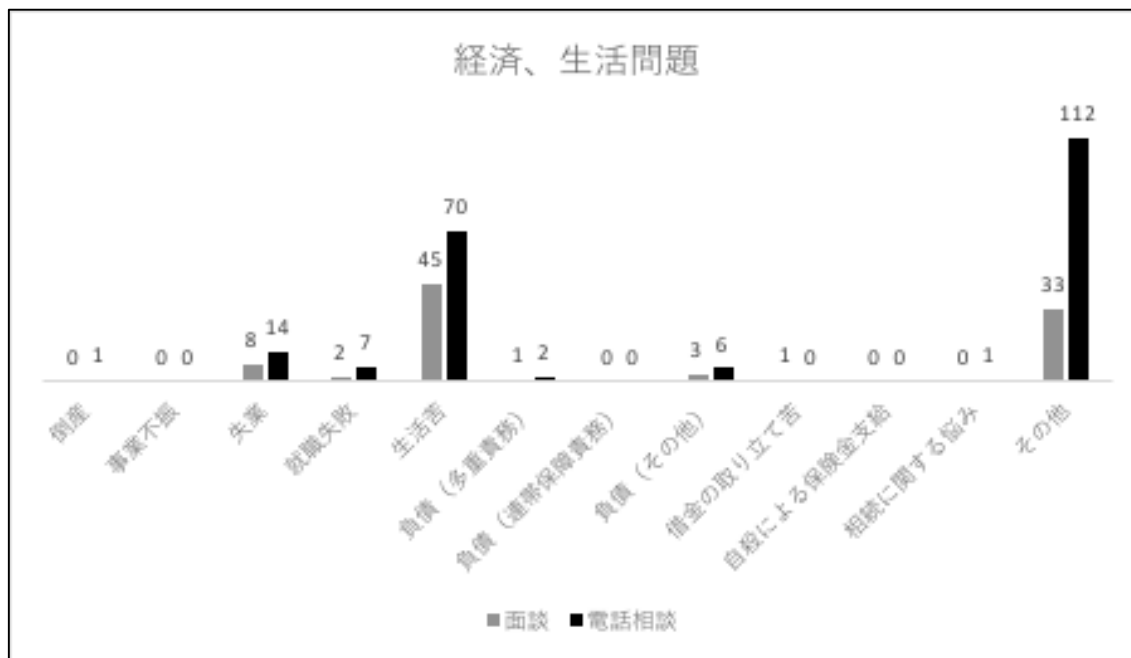


「職場の人間関係」「仕事疲れ」に関する悩みが多く、それらのこと、またはそれらが要因となった体調不良により、休職や退職を考えている事例もあった。休職や退職に関する悩みは「その他」に含まれている。

風俗の仕事を掛け持ちしている者からの相談も面談で10件、電話相談で36件あったが、住まいや金銭、性依存などのメンタルヘルスの問題も併せ持っている場合がほとんどであった。

4 経済・生活問題

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）



「その他」には物理的な居場所に関する相談が多く含まれる。初めから居場所の提供や保護を求めて相談に訪れる物も増えており、必要に応じて各地の子どもシェルターとも連携を図った。

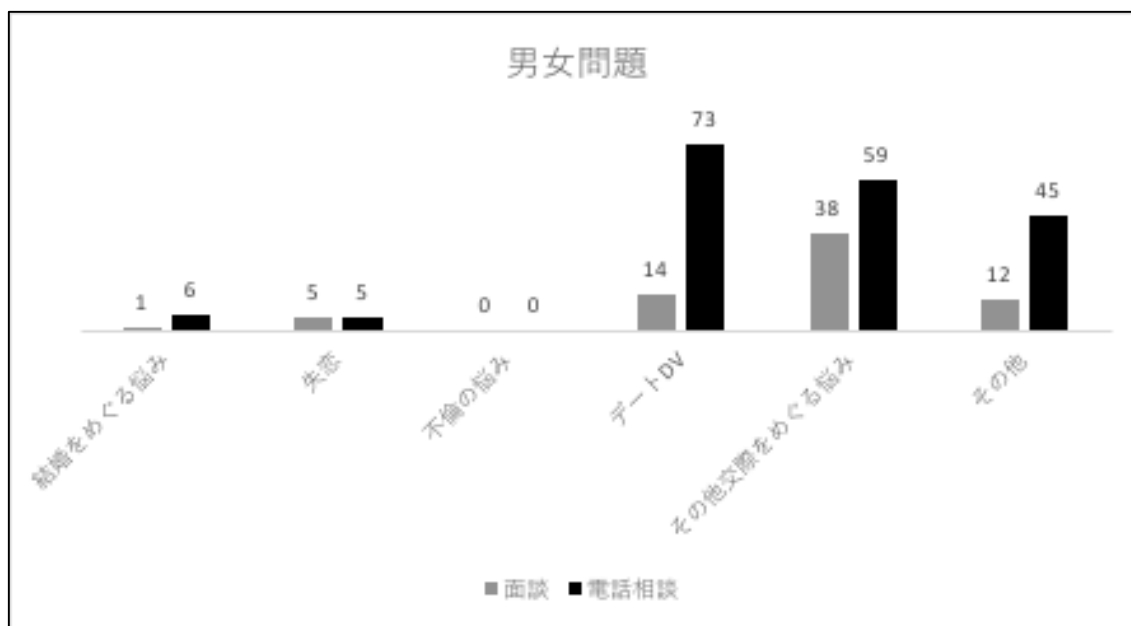
初めから福祉事務所への同行を希望しての相談も受け、現地の役所へ同行した事例もあった。

保護者から金銭的な援助もなく、家庭内にも居場所がないため終電まで繁華街でただ歩き続けているという高校生からの相談もあった。

電話相談では引きこもりに関する相談も見られた。

5 男女問題

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）

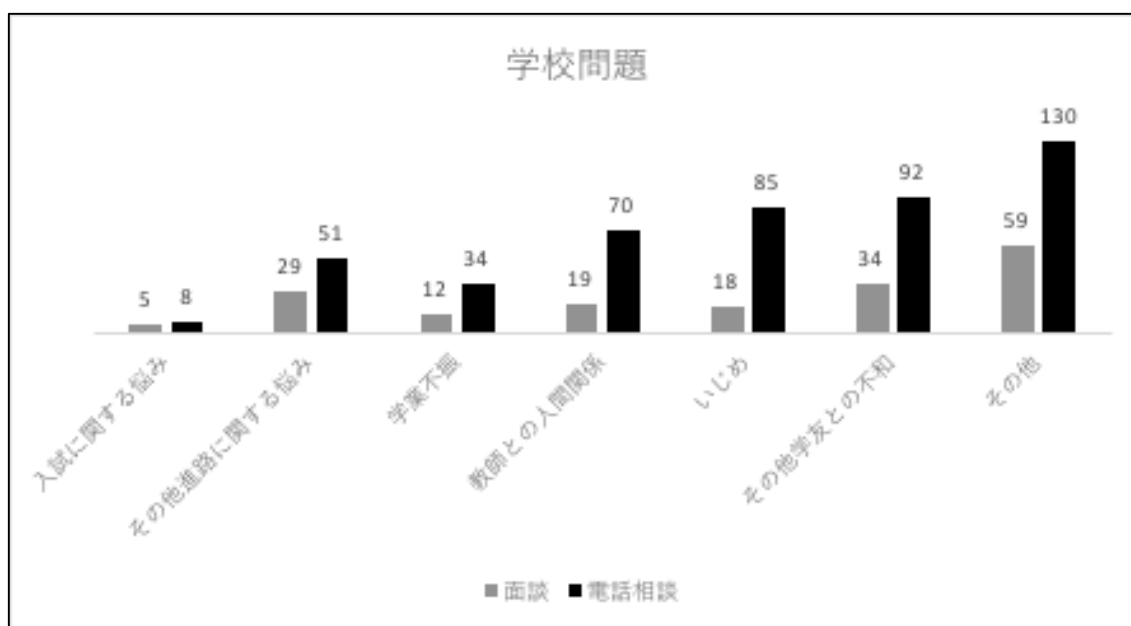


P18 の事例でも取り上げているが、デート DV 関係にある恋人と別れるために警察署へ同行した事例もあった。「デート DV」に関する相談は電話でも多く寄せられ、離別について本人の意思が揺れ動いてしまうことも珍しくないため、継続的な対応が必要である。

「その他交際をめぐる悩み」では、同性パートナーとの交際をめぐる相談も多数を占めていた。

6 学校問題

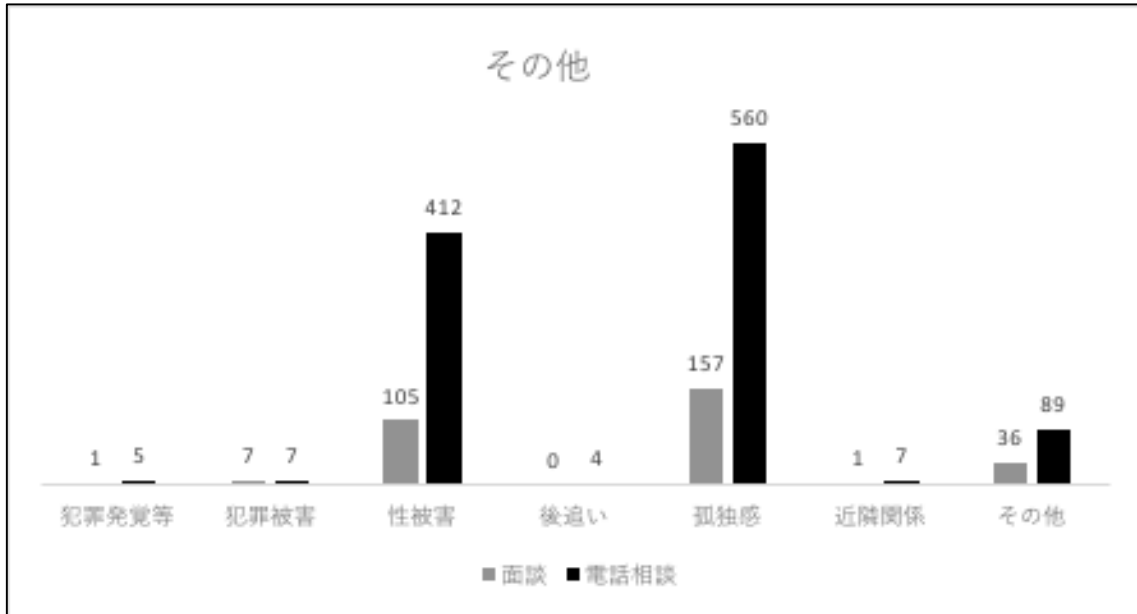
面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）



「その他」が最も多く、その中には部活、退学、転入、編入に関する相談が多く含まれる。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭などに相談したくてもなかなか声をあげられないでいるという事例も多かった。教員の忙しさへの気遣い、話すタイミングが掴めない、他の生徒に相談しているところを見られる不安などがその主な理由であった。

7 その他

面談 N=322、電話相談 N=1084（単位：件/複数回答）



「孤独感」から自殺念慮を抱くなど、周囲の人間関係の中で孤立が感じられる相談者の多くは孤独感を抱いている傾向にあった。一方、周囲のサポートや関わりがあっても心の交流が図れていない場合も孤立感を抱いていることが多かった。

「性被害」も自殺念慮に繋がる大きな要因である。家族からの性的虐待のほか、屋外でレイプされ警察署へ同行した事例、過去の性被害のトラウマに苦しんでいる事例もあった。

VI 事例

支援内容と関係機関との連携

（※全事例プライバシーに配慮して一部改変）

●ケース 1

20代女性 <デートDV/警察署生活安全課への同行と連携対応>

交際相手とDV関係にあり、「逆恨みが怖いため別れたくても別れられない。」と相談が入った。過去には暴力を振るった交際相手が逮捕され、他自治体の警察が介入した経緯もあった。

本人の希望もあり、まずは警察への相談に同行した。

しかし、警察署で事情を話し、避難方法についても一緒に考えているうちに本人の気持ちが揺れ出してしまい、交際相手を庇ったり、「自分は愛されている。」という発言が増えていっ

た。

シェルター入所の可能性もあったため、障害者福祉課保健師、子育て支援課とも連絡を取り合い、構えていたが最終的には本人に避難の意志がなくなってしまう、無理矢理避難させてもかえって危険であると警察も判断した。そのため、改めて本人の意志が固まった時にすぐに避難できるよう、警察と BOND プロジェクトで引き続き見守りながら連携対応していくこととなった。

●ケース 2

20代女性＜望まない妊娠/障害者福祉課保健師と連携、家族の対応＞

交際相手の子どもを妊娠しているが、暴力がひどい相手であるため産むことはできない。さらに、喧嘩してしまったことから中絶同意書のサインももらえなさそうであると悩んでおり、連絡が入った。中絶に対する不安や自責感もあり、電話でなだめながら話を聞いた。後日、交際相手から同意書のサインをもらうこともでき、手術を受けることはできたが、手術直後に性的関係を持ち、避妊してもらえなかったとのことで、アフターピルをもらうために産婦人科にも同行した。

改めて過去の記録を辿ると、かつて相談者の非行について悩んだ家族が相談に訪れていた。BOND プロジェクトでは基本的に本人からの相談を受けているが、障害者福祉課の保健師同席のもと、家族の面談を行っていた。家族から本人へ BOND プロジェクトの情報も伝えていたが、数年かかりようやく本人が相談を寄せるようになった。

●ケース 3

20代女性＜障害の発覚/荒川区内各機関での見守り＞

仕事が決まらないことから家族関係や友人関係が悪くなり、相談に訪れていた。面談では精神科の受診も勧め、本人も希望したことから通院するようになり、そこで軽度知的障害があることが発覚した。

見えづらい障害であるため周囲から理解を得ることが難しく、身近な人間関係の中では次第に孤立していった。精神科の他、保健所の保健師やハローワークなど区内の多数機関に頻繁に相談するようになったため、本人が持参した連絡ノートに面談の様子やコメントを書き、他機関との連携対応を行った。

●ケース 4

10代女性<高校中退/一人暮らしのサポート>

ネグレクト傾向の家庭に育ち、情緒不安定な日々が続く中で学校の友人関係も上手くいかなくなり、高校を中退。親子関係も悪化し、同時に家を出て一人暮らしを始めた。アルバイトを始めたが、若年ゆえの無知識も目立ち、本人も希望したことから各種手続きへの同行、日常生活のサポートも行った。

また、一人暮らしを始めた後も孤独感を強く感じており、1日誰とも話さずに終わる日も珍しくないとのことで、それが自殺念慮につながることも多いようだった。

近所に住んでいるため頻繁に面談に訪れるようになり、「bondがあって、日常会話ができる人がいてよかった。」とも話していたことから孤立と孤独が感じられた。

クリスマスや年末年始も実家に帰れず一人で過ごそうとしていたため、イベントや行事を感じられるような面談を実施した。

●ケース 5

10代女性<リストカット、援助交際/街の保健室としての関わり>

受験のプレッシャーや家族関係が上手くいかなかったことが要因となり、不安定な気持ちの解消法としてリストカットをするようになった。初めは学校に相談したが、「次にリストカットしたら退学だ。」と言われてしまい、気持ちの切り替えもすぐにはできないため相談することができなくなってしまった。寂しさや誰かに必要とされたい気持ちも強くなり、家庭や学校に居場所がないことから SNS で知り合った不特定多数の男性と体の関係を持つようになる。bond@あらかわ相談室にはそうした状況の中、不安や孤独など揺れる気持ちを抱えながら訪れた。

面談では「断ることが苦手なため、避妊をしていない。」とも打ち明けた。SNS を通して見知らぬ人と関係を持つことや妊娠、性感染症のリスク、断り方について話し合い、万一の場合自分の身を守れるようにと避妊用具を渡した。

●ケース 6

10代女性<居場所がない/SNS から相談に繋がった事例>

父子家庭に育ち、父親から暴言を吐かれることが頻繁に起きるようになったため家に居場所を失っていった。アルバイトは学校で禁止されており、小遣いももらえないため、学校が終わった後は通学定期券範囲内の繁華街で終電まで過ごし、あてもなくひたすら歩き続けていた。

寂しさも強く、日常的に SNS で繋がった男性とメッセージのやり取りを重ねており、BOND プロジェクトの活動も SNS を通して知ったとのことだった。

食事也十分にとれていない様子で空腹状態で面談に訪れることもあり、食事提供も行った。「これまでに誕生日を祝ってもらったことがない。」とも話していたため、誕生日にはささやかながら祝った。

面談回数も増えており、bond@あらかわ相談室が新たな居場所の一つになったようである。

●ケース 7

20 代女性<生活破綻/『ボンドのイエ』での自立支援>

(※『ボンドのイエ』については P25、26 参照)

虐待によるトラウマや精神疾患を抱えながらも自立を目指していたが、仕事に就いても障害や疾患の症状により継続することができず、悩んでいた。そうした時に知り合い、仕事を紹介してくれるようになった男性を頼りにするようになる。しかし、次第に仕事や金銭を管理されるようになり、軟禁状態となってしまう。

同時期に発生した『座間市遺体遺棄事件』のニュースを見て自分の置かれている状況に恐怖を感じ、隙を見て逃げ出し、駆け込む形で bond@あらかわ相談室を訪れた。

すぐに働ける状態ではなく収入も所持金もないため、福祉事務所の相談に同行、行政の保護を経て、本人の希望もあり『ボンドのイエ』に入所して自立を目指すこととなった。

虐待、金銭、体調など様々な問題を重ねて抱えていたため、生活を一度リセットすべく、警察、病院、法律相談にも同行した。

●ケース 8

20 代女性<家出/法的根拠に該当しない事例>

親子関係が上手くいかなくなり、家出。SNS で人との繋がりや泊まれる場所、住み込みの仕事を求め、居所を転々とさせながら生活していた。知的障害もあるため、そうした生活の中で知り合った人に騙されたり利用されてしまうことも珍しくなく、名前を使われたり、対人トラブルや金銭トラブルに巻き込まれることもあった。

仕事に就くこともできず売春を繰り返していたが、居場所や金銭を失い、こうした生活に限界を感じたために bond@あらかわ相談室を訪れた。

売春を繰り返してしまう生活からも脱したいと、施設での保護を希望しており、区役所への相談に同行した。その後、住民票のある自治体も関わったが、親からの虐待があるわけではないことから施設での保護を受けるための法的根拠に該当せず、自宅に戻り福祉サービス

を受けることとなった。

対応に困難が生じたケースであったため、別途課題を記載する。

VII 成果と課題

1 成果

・今年度で4年目を迎えた本事業であるが、荒川区内の相談窓口として地域に根付いてきたと感じている。P19「ケース2」、「ケース3」は継続して相談場所を構えてきたからこそ対応できたと実感する事例であった。また、P10～11では「近況報告」が主訴になる事例が多いと記したが、P20～21「ケース4」、「ケース6」はそうした事例である。「相談」には至らない内容であったとしても、継続して対応することで、困ったことがあった時、本人がSOSを出したい時には、すぐに助けを求めることができる相談相手となることができた。根底に自殺念慮を抱えている場合も多いため継続して関わり続けることが命を支えることにもなっていると考えている。

・従来、必要に応じて各地公的相談機関への相談に同行し、支援に繋ぐ活動をしてきたが、公的機関とNPOの連携の難しさを感じる場面の一つとして、個人情報に関係から繋いだ後の相談者の情報が途絶えてしまうことがあった。仮に相談者がその後の支援を拒んだり、その場から姿を消してしまうことがあってもその状況を知ることができず、再び本人から相談があれば対応はしてきたが、仕切り直しとなるがゆえの支援の困難さと課題を感じてきた。荒川区においては自殺未遂者支援連絡会をはじめ、各支援者が集まり、ケース検討をする機会が設けられているため、行政支援に繋がった後も引き続き連携を取ることができ、相談者を見守りやすく、手厚い支援ができると感じている。対応が困難なケースにおいては特に、連携が取れていたためフォローができたと顧みる。

2 課題

・P20～22「ケース5」、「ケース6」、「ケース8」でも記載したが、特に若年世代においてはSNSが欠かせないものとなっており、他者との出会いの場や気持ちや悩みの吐き出し場所、あるいは自分を表現する場であり、連絡を取り合うためのツールとしても使用されている。「ケース7」で取り上げた『座間市遺体遺棄事件』でも加害者と被害者はSNSによって繋がっており、そのように大きく取り沙汰されない場合であっても一歩手前の事件や犯罪に巻き込まれているケースは多数存在すると考える。

SNSを使用した相談対応や、SNS上の情報発信、声かけの必要性も強く感じたことから、

BOND プロジェクト本部では厚生労働省の自殺対策事業を受け、平成30年3月に LINE 相談及び Twitter をはじめとする web 上のパトロールを行った。パトロールの中でハイリスクと思われる若年者には相談を呼びかけるダイレクトメッセージやリプライを送った。bond@あらかわ相談室にも SNS 上の情報を見て訪れる者は多く、SNS を使用した相談活動、アウトリーチ活動は引き続き強化していく必要がある。

・P20～21「ケース8」では法的根拠に該当しない事例に触れたが、困難や問題を抱えながらも条件に当てはまらないために支援から漏れてしまう者の対応について考えたい。「ケース8」において相談者は長期的な家出状態にあり、売春を繰り返してしまうことから婦人保護施設への入所を希望していた。虐待に相当する明確な暴力や DV、ストーカー被害がなかったとしても、居場所がないことは明らかであり、他者からの管理やサポートがなければこれまでと同様に売春を繰り返すなど、ハイリスクな状況が続くことは予想された。

現時点での法律では緊急案件に該当しないとの判断であったが、法律上の保護の視点ではなく、そこで何が起き、どのような問題が発生しているのかを把握し、なぜそのような生活を選ばざるを得なかったのか、どんな支援が必要かを共に考えていくことが必要なのではないだろうか。売春防止法と婦人保護事業の改正、改善を求める動きはあるが、依然として保護を受けるためのハードルは高いと感じるため、より一層の間口の拡大、法改正を求める。荒川区に限らず社会全体の問題として検討、改善していくべき事柄であり、問題提起や政策提言にも取り組んでいきたい。

また、「ケース5」や「ケース6」のように、困難を抱えた状態にありながらも身近に相談できる大人がおらず、居場所もなく、孤立してしまうことでリスクが高まっている事例もある。犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、被害を未然に防ぐための居場所が必要である。被害を受けた後の相談先や居場所は多数存在するが、被害を受ける前の居場所は不足していると見受けられる。

・様々な事情から、SNS で宿泊場所提供者を探しながら家出生活が続けている、あるいはネットカフェ暮らしをしているなど、住所不定者からの相談も増加しているが、前泊した場所なのか住民票を置いている場所なのか、どの自治体に相談するのか判断に迷う事例もある。公的な支援を受ける場合、手続きが煩雑で柔軟に対応することが難しい例もあるため、自治体間、自治体と民間の連携の取りやすさを求める一方、スムーズな対応や確実に支援に繋げるためにもアセスメントを強化したい。

VIII 講評

首都大学東京 健康福祉学部看護学科 助教 川添美花氏

昨年、『座間市遺体遺棄事件』というまさに本事業の対象となる 10～20 代の若者が被害に遭うという痛ましい事件が起きた。あの事件は私たちに、切実な SOS を出している若者に対して何ができるかを考えさせられる機会となったにちがいない。

10～20 代の若者は相談先として、親や友人、先輩・後輩、教員等、身近な存在から相談相手として選びやすく、保健室の養護教諭、医療機関や行政機関といったような専門機関を相談先と選択することは最後であると言われている。

本報告書をみると、彼女らの抱える悩みの背景には、本来相談相手としてまず選ばれるはずの身近な人々に関する悩みが潜んでいることがわかる。提示されているいくつかのケースをみても、このような複雑で、難解な悩みは 10～20 代の彼女らが一人で抱え、解決できるものではないことが十分に伝わってくる。

しかし、これまでの彼女らが受けてきたつらい経験から、他者を信用できない、人に頼ること知らない、援助の求め方がわからない、身内のことを人に話してよいのかわからないなどの理由から支援に繋がりにくいという現状がある。このような彼女らにとって、本事業は無条件に自分を受け止め、真剣に自分の今後のことを共に考え、自分が自分らしく生きていける道を切り開くための貴重なサポーターとなっているにちがいない。

荒川区における若者世代の自殺予防相談事業が始動し、4 年。本報告書で、相談内容に「近況報告」が増えており、これは過去に相談し、今の状況を報告してくれてきたということを示している。この結果は、本事業が「相談できる場」「なんでも話せる場」として彼女らに認知され、今後彼女らに何か問題が生じた場合に、相談先として本事業を第一選択として選んでもらえる可能性があることも示している。これは Bond プロジェクトのスタッフの方々のきめ細やかな支援と共に、継続的に本事業を行なっていたからこそその成果と言える。

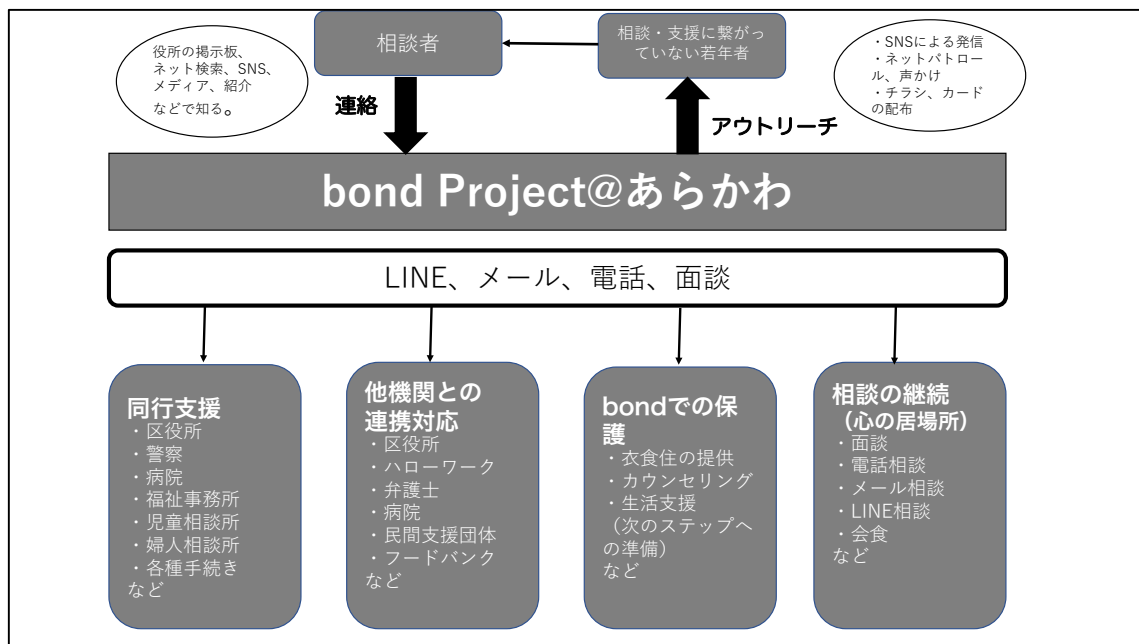
Bond プロジェクトは昨年度新たな事業を開始した。一つは「ボンドのイエ」である。中長期的な保護により自立の準備をするための居場所である。もう一つは、LINE 相談やネットパトロールであり、昨年度の事件を機に立ち上がった事業である。これらは現行の制度やサービスからこぼれ落ちやすい若者らをサポートする新たな手段となるに

ちがない。

本事業では、荒川区は行政機関として公的サービスを、Bond プロジェクトは高い行動力と、彼女らと同じ目線で、一緒に考え、寄り添い、彼女ら一人一人に合ったオーダーメイドなサービスを、それぞれが専門性を存分に生かし連携しながら支援を行なっている。このような事業は全国的に見ても、先駆的な事業と言える。しかし、このような支援を必要としている若者は全国に大勢潜んでいる。1人でも多くの若者が救われるよう、本事業が継続し、同様の事業が全国的に普及していくことを願ってやまない。

[資料]

1 相談・支援の流れ



2 『ボンドのイエ』について

10代20代の女の子のための自立準備のための家。「困難を抱え、帰る場所がない女の子たちの『今』を見守り、自分のために歩み出す『一歩』を支える。」という理念のもと、平成29年7月に始動。居場所がない、お金がない、公的支援の対象となりにくいなど、困難な状況にあるが、自立を目指したい女の子を主な入居の対象とする。

共同生活の最低限のルールのみを設け、入居のしやすさ、生活のしやすさを重視。携帯電話やスマートフォンの使用も可能としている。

【ボンドのイエで提供するもの】

- ・安心できる生活（衣食住）
- ・生活習慣の獲得（料理・洗濯・掃除・お風呂の入り方・食べ方）
- ・心のケア（ボンドスタッフ、臨床心理士らによる）
- ・つながりを増やす（他の支援機関、支援者の紹介）
- ・自立へのサポート（仕事探し、家探し、計画立てなど）



（キッチン、ダイニング）



（リビング）

3 活動写真



(メール相談、電話相談)



(活動報告会)



(食事提供:スタッフの手作り弁当)



(クリスマス面談:ケーキとプレゼント)



(面談)



(首都大学図書館での展示)

「荒川区における若年世代の自殺予防相談事業報告書」 29年度版

平成30年4月発行 登録(30)0013

【発行者】 荒川区福祉部障害者福祉課

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3

電話 03(3802)3111 内線2378

【調査研究委託機関】

NPO 法人 bond Project

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-18-3

日暮里駅前ツインビル6F

電話 03(6458)3773